



株式会社ブロードバンドタワー

(証券コード : 3776)

2019年12月期 通期決算説明資料

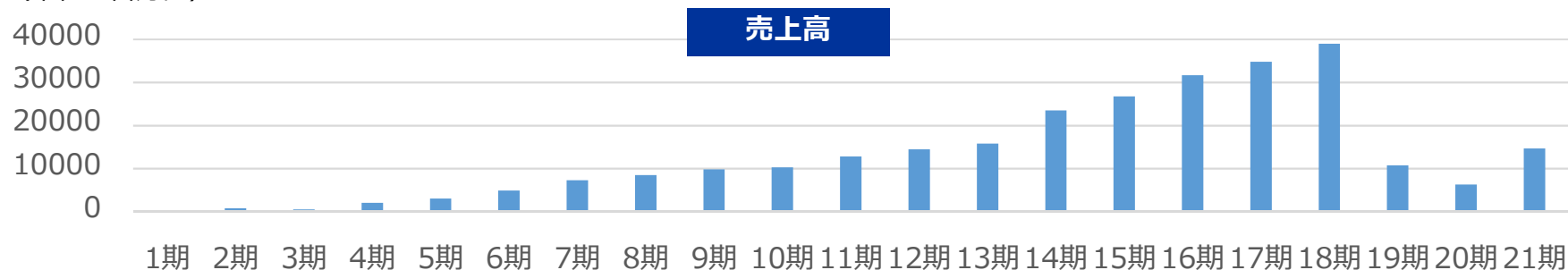
1	2019年12月期 通期決算概況	P 5 ~P9
---	------------------	---------

2	セグメント別事業概要	P12~P35
---	------------	---------

3	2020年12月期 業績予想等	P37~P39
---	-----------------	---------

本年（2020年）2月9日に創立20周年を迎えました。

(単位：百万円)



(単位：百万円)



(単位：百万円)



1 2019年12月期 通期決算概況 P5~P9

- | | |
|---------|--|
| 2019年1月 | 2019年1月4日付けで株式会社IoTスクエアの全株式を譲渡 |
| 2019年1月 | 2019年1月31日を効力発生日として株式会社ティエスエスリンクと株式交換を行い、同社を完全子会社化 |
| 2019年4月 | 第三者割当による新株式、行使価額修正条項付第10回新株予約権及び無担保社債の発行を決議 |
| 2019年9月 | 大手町の新データセンター第2期工事完了 |

連結の範囲(2019年12月末)



【2018年12月期】

コンピュータプラットフォーム事業

◆ 当社

IoT/AIソリューション事業

- ◆ エーアイスクエア
- ◆ IoTスクエア
- ◆ BBTOWER SAN DIEGO INC.
- ◆ グローバルIoTテクノロジーベンチャーズ
- ◆ GiTV Fund I Investment,L.P.

連結外

メディアソリューション事業

- ◆ ジャパンケーブルキャスト(JCC)
- ◆ 沖縄ケーブルネットワーク (OCN)
- ◆ IoTスクエア

連結外

【2019年12月期】

コンピュータプラットフォーム事業

- ◆ 当社
- ◆ ティエスエスリンク **新規連結**

IoT/AIソリューション事業

- ◆ エーアイスクエア
- ◆ BBTOWER SAN DIEGO INC.
- ◆ グローバルIoTテクノロジーベンチャーズ
- ◆ GiTV Fund I Investment,L.P.

メディアソリューション事業

- ◆ ジャパンケーブルキャスト(JCC)
- ◆ 沖縄ケーブルネットワーク (OCN)

※持分法適用関連会社としてキャンパスナビTVが前期、当期とも連結の範囲に含まれる。

2019年12月期 通期連結業績



- 予想対比、売上高は増収、営業利益と経常利益は増益。親会社株主に帰属する当期純利益は減損損失、投資有価証券評価損、繰延税金資産の取り崩しにより減益となった。

(単位：百万円)	2019年12月期 通期予想 (2019年2月12日公表)	2019年12月期 通期実績	予想対比	
			金 額	増 減 率
売 上 高	14,200	14,660	460	3.2%
売 上 原 価	-	11,133	-	-
売 上 総 利 益	-	3,527	-	-
販 管 費	-	3,830	-	-
営 業 利 益	△580	△303	276	-
経 常 利 益	△640	△352	287	-
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	△780	△912	△132	-

※2018年12月期より決算日を6月30日から12月31日に変更。これに伴い、2018年12月期は6カ月間となり、2019年12月期は12カ月間であるため、前連結会計年度との比較は記載しておりません。

2019年12月期 要約BS(連結)



➤ 新データセンターへの投資等により固定資産が増加

(単位：百万円)

	2018年 12月末	2019年 12月末		2018年 12月末	2019年 12月末
現金及び預金	7,250	5,914	買掛金	607	983
受取手形・売掛金	1,717	2,121	短期借入金 1年内長期借入金	1,831	1,820
有価証券	221	-	未払法人税等	45	108
商品及び製品	282	306	その他	1,600	1,257
その他	744	607	流動負債合計	4,084	4,170
貸倒引当金	△15	△5	長期借入金	6,339	5,893
流動資産合計	10,202	8,944	その他	2,554	2,651
			固定負債合計	8,894	8,544
有形固定資産	6,643	8,458	負債合計	12,978	12,714
無形固定資産	2,624	3,000			
投資その他の資産	3,679	3,979	株主資本合計	7,234	8,270
固定資産合計	12,947	15,438	その他包括利益 累計	△23	△27
			非支配株主持分	2,960	3,425
			純資産合計	10,171	11,668
資産合計	23,150	24,383	負債純資産合計	23,150	24,383

2019年12月期 要約CF(連結)



【主 な 内 訳】

2019年12月期			
営 業 活 動 C F	1,406百万円	税金等調整前当期期純損失	△660百万円
		減価償却費（のれん等含む）	1,193百万円
		仕入債務の増加	375百万円
		未払消費税等の増加	454百万円
投 資 活 動 C F	△4,449百万円	有形固定資産の取得による支出	△2,951百万円
		ソフトウェアの取得による支出	△879百万円
		投資有価証券の取得による支出	△691百万円
財 務 活 動 C F	1,588百万円	長期借入による収入	1,000百万円
		長期借入金の返済による支出	△1,456百万円
		株式の発行による収入	1,786百万円
		非支配株主からの払込みによる収入	560百万円

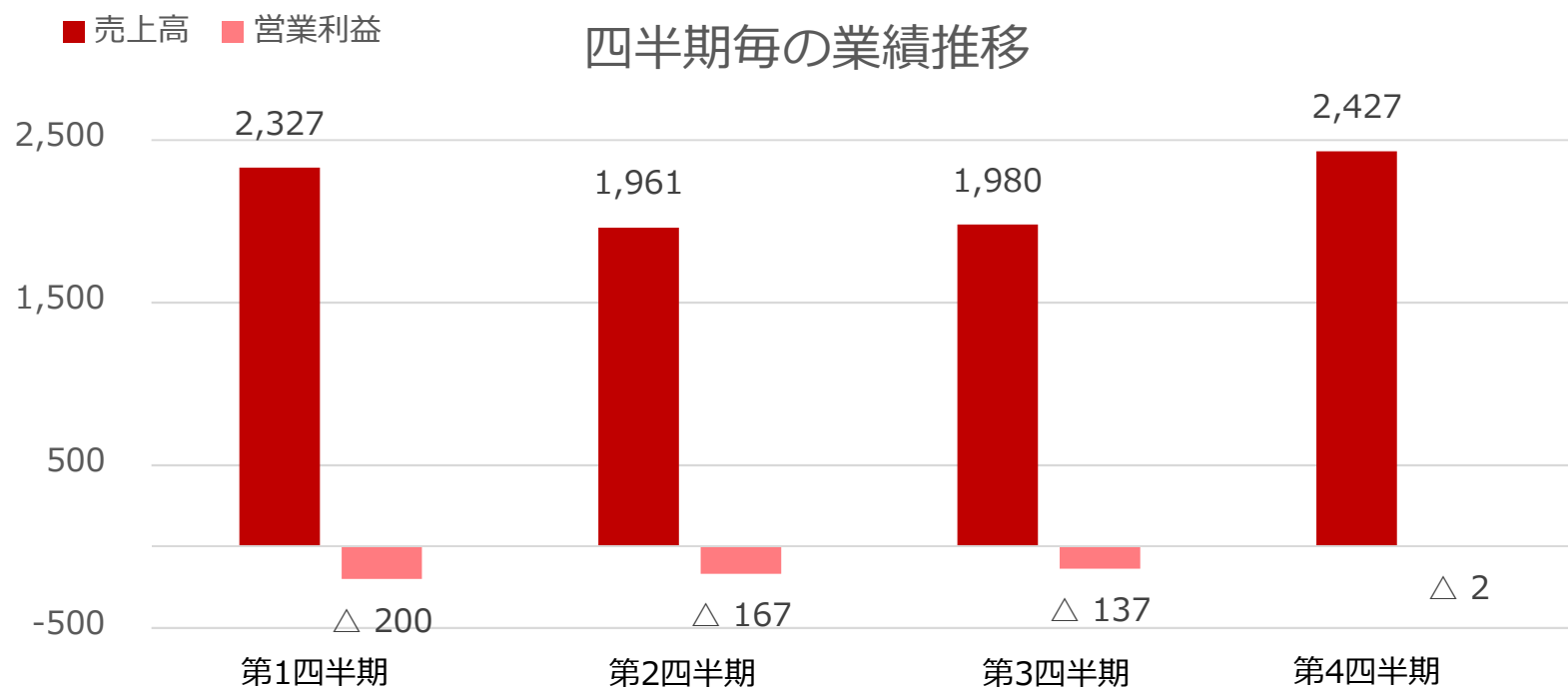
2

セグメント別事業概要

P12~P35

2-① コンピュータプラットフォーム事業

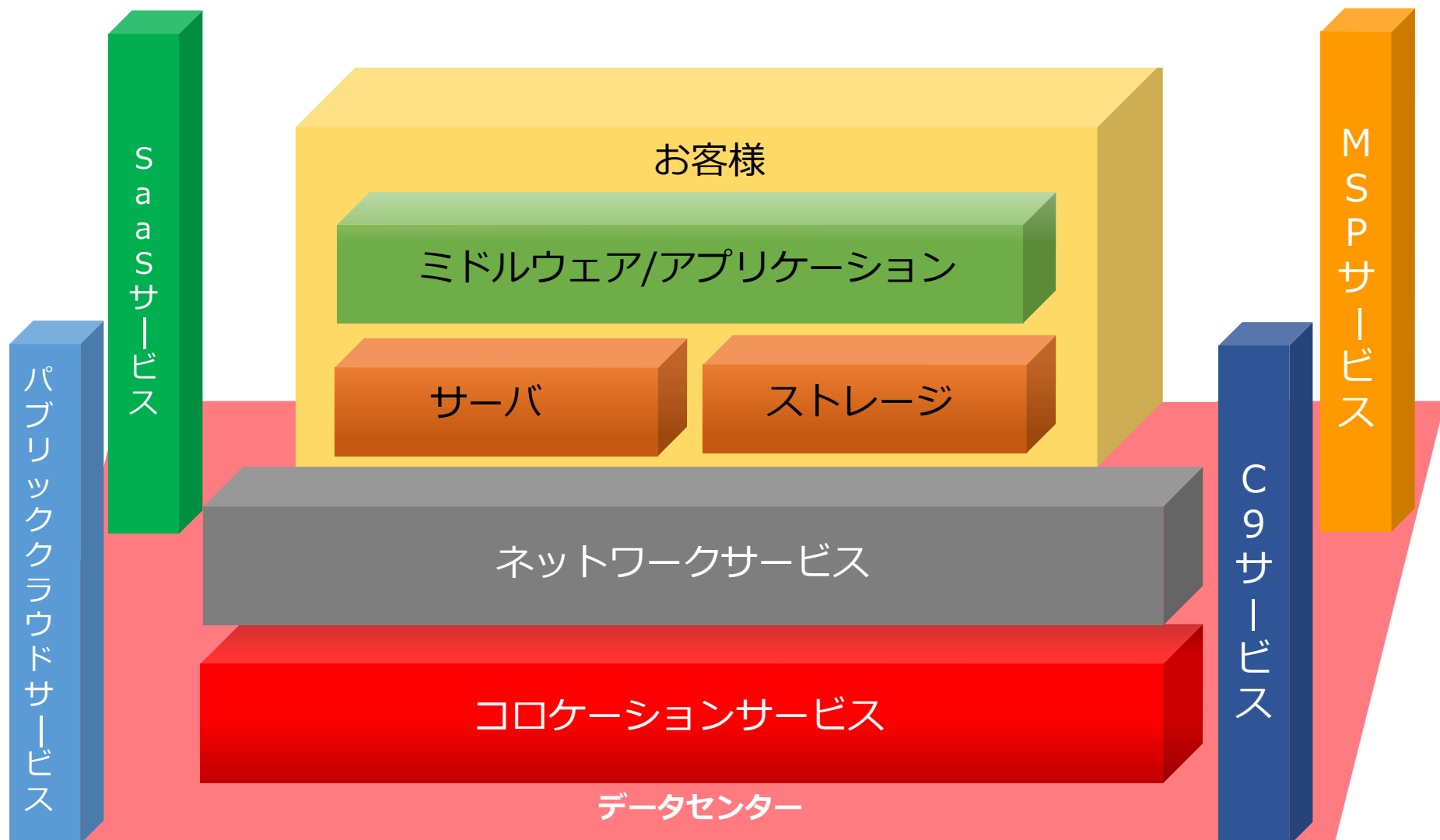
2019年12月期：売上高8,696百万円、営業利益△508百万円



第1四半期はデータ・ソリューションの売上が好調。

第4四半期は新データセンターの売上増により、営業利益が改善。

➤ データセンターをはじめ訴求力の高いITサービスを面で展開



- 新大手町サイトの設置可能ラック数は約750ラック。
2019年12月末時点での750ラックに対する契約率は約7割、稼働率は2割

- **CASEやAI等お客様のご利用用途が拡大**

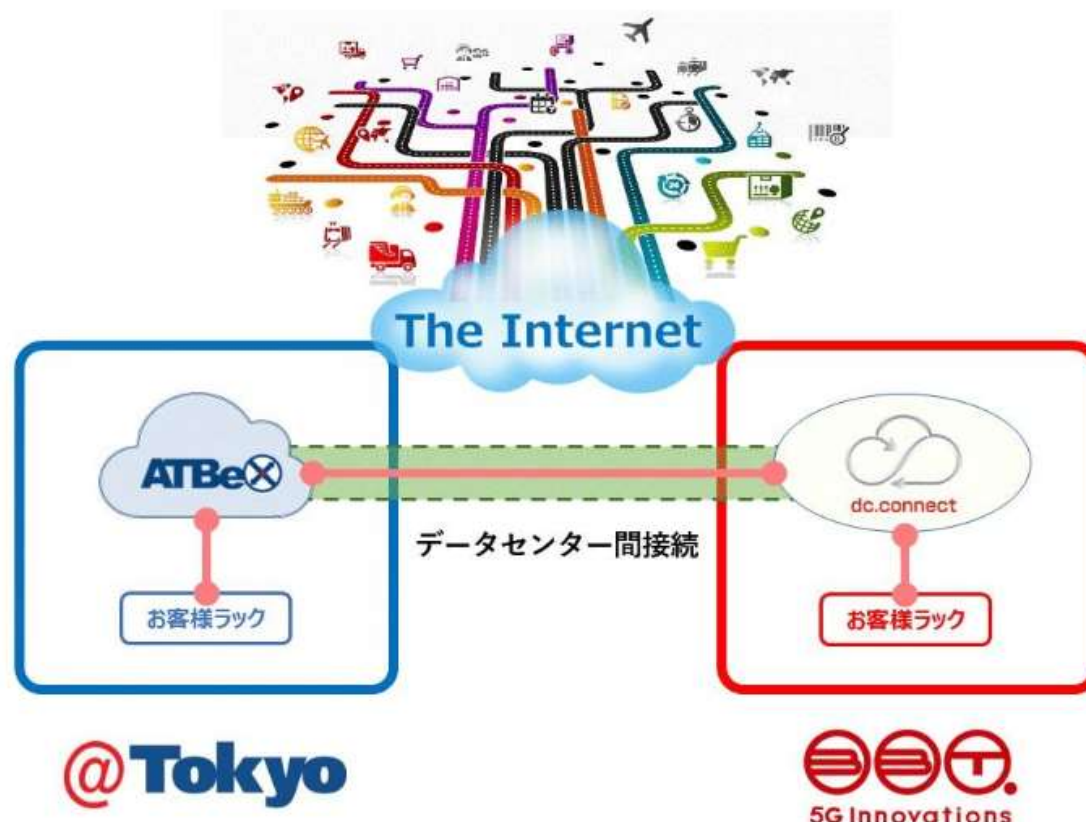
CASEは「Connected : コネクティッド化」、「Autonomous: 自動運転化」、「Shared/Service: シェア/サービス化」、「Electric: 電動化」の頭文字を取った造語



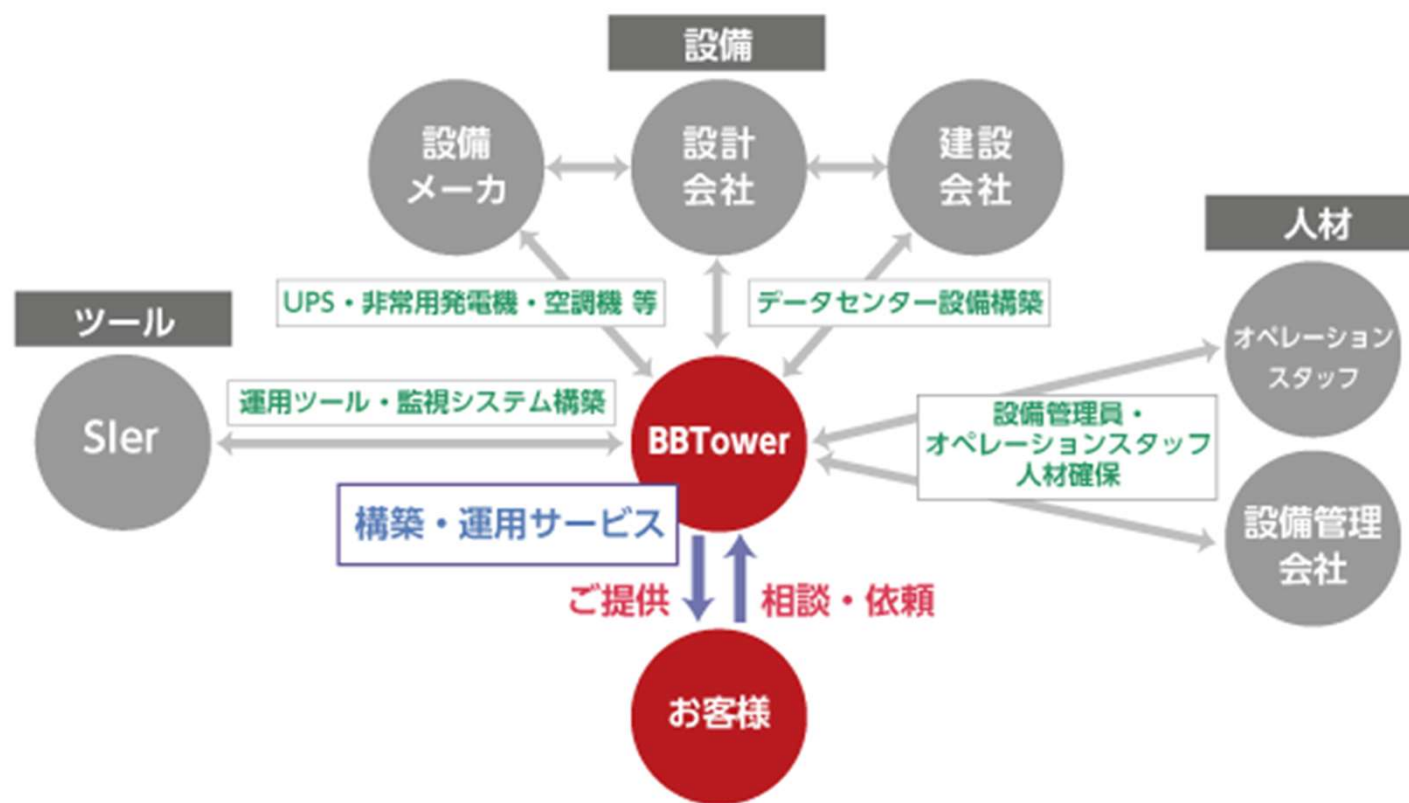
- セコムグループの一員である株式会社アット東京とデータセンター間接続を準備中



インターネット接続、クラウド接続等、より柔軟なネットワーク接続が可能となり、お互いのお客様の利便性が向上



- データセンター需要の増加が予想される中、当社がこれまでデータセンターの構築と運用において培った経験、ノウハウを結集した「データセンター構築・運用サービス」を開始

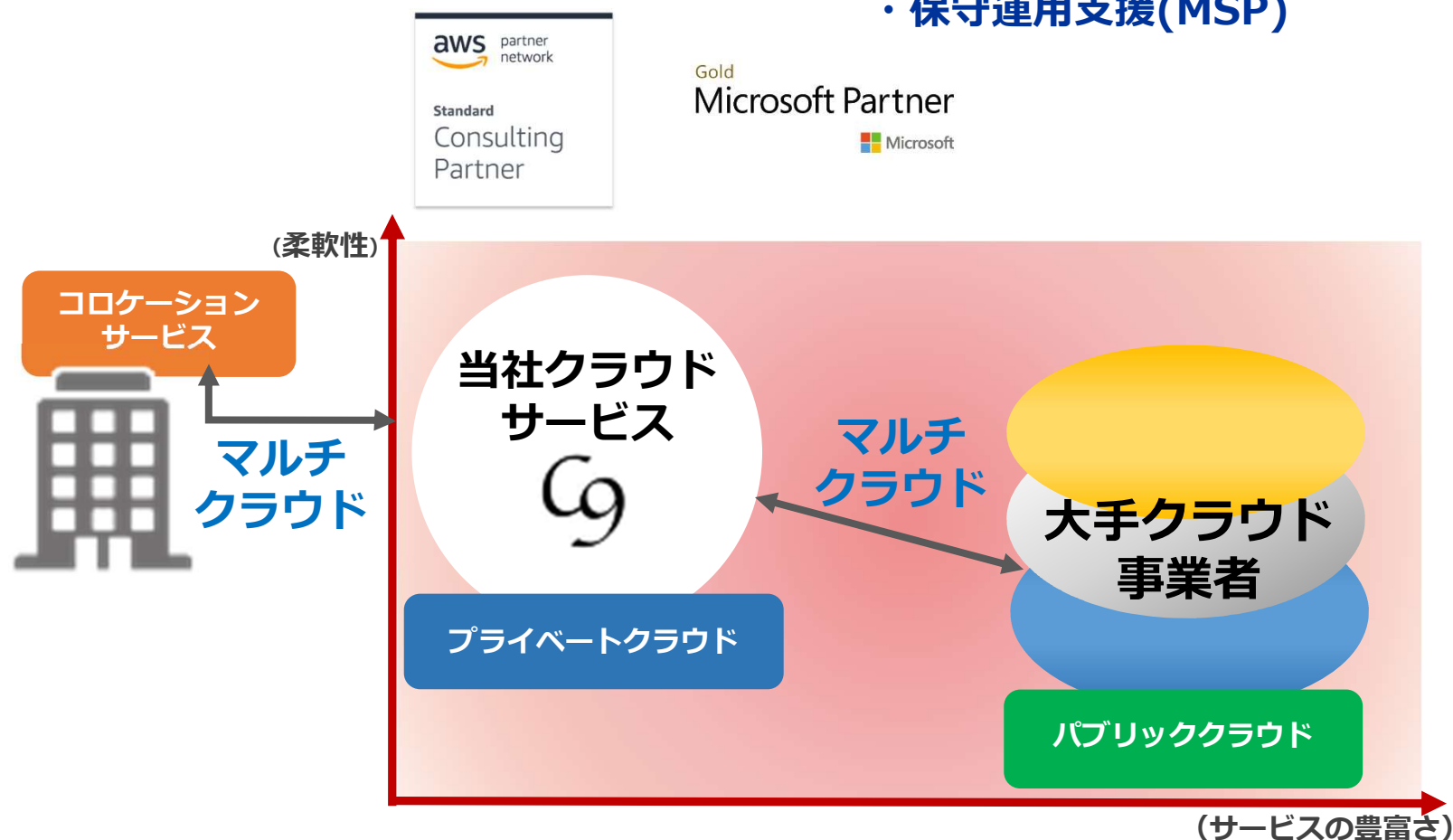


□パブリッククラウド支援

- ・ AWS/Azureの構築・運用支援
- ・ AWS/Azureの決済代行
- ・ 保守運用支援(MSP)

□独自マネージドクラウド

- ・ 仮想/物理マシンと柔軟な提供
- ・ AWS/Azure/Google cloudとの専用線接続
- ・ 保守運用支援(MSP)



➤ データ量の増大を背景に販売は堅調

Dell EMC Isilon

DELL EMC



- ・ 当社取扱い主力製品

Dell EMC Unity



- ・ ハイブリッドまたはオールフラッシュのストレージ

Scality RING



- ・ 標準的なIAサーバを利用するSoftware Defined Storage。ペタバイト級の容量へ拡張可能。

➤ 独自製品をセキュリティ対策用途に応じて展開



ファイルサーバー・PCからのコピー・画面キャプチャ禁止

サーバーやPC上のファイル持ち出しを禁止する情報漏洩対策ソフト。
コピー・保存・印刷・画面キャプチャーを禁止。管理サーバー不要。



Webページ・ファイルのダウンロード（保存）・印刷禁止

ブラウザーに表示されたページやPDF/Officeファイルなどのコピー・印刷・保存・画面キャプチャーを禁止する情報漏洩対策ソフト。



社内でのファイル共有を安全に ＜サーバーで権限情報を一元管理＞

ファイルを認証＋暗号化＋権限制御で保護し、社内ですべて安全に共有。万が一の際には、管理者側で利用停止やログ追跡が可能。



配布ファイルの不正利用防止に ＜クライアントだけで簡単暗号化＞

閲覧限定のファイルに暗号化し、不正な利用を防止する情報漏洩対策ソフト。サーバー不要で手軽に使用。



サーバーでファイルを自動暗号化 ＜システムに暗号化機能を組み込み＞

システムに組み合わせ、スピーディにセキュリティ対策を実現。コピー・印刷禁止されたファイルにコマンドラインで自動暗号化。



ファイルの簡単暗号化に

ファイルを手軽に暗号化。Windows・Macに対応。ファイル利用後は自動で再暗号化。海外利用も可。



USBファイルの暗号化に

USBにコピーされたファイルを自動暗号化。ファイル編集後は自動的に再暗号化し、安全性を継続。



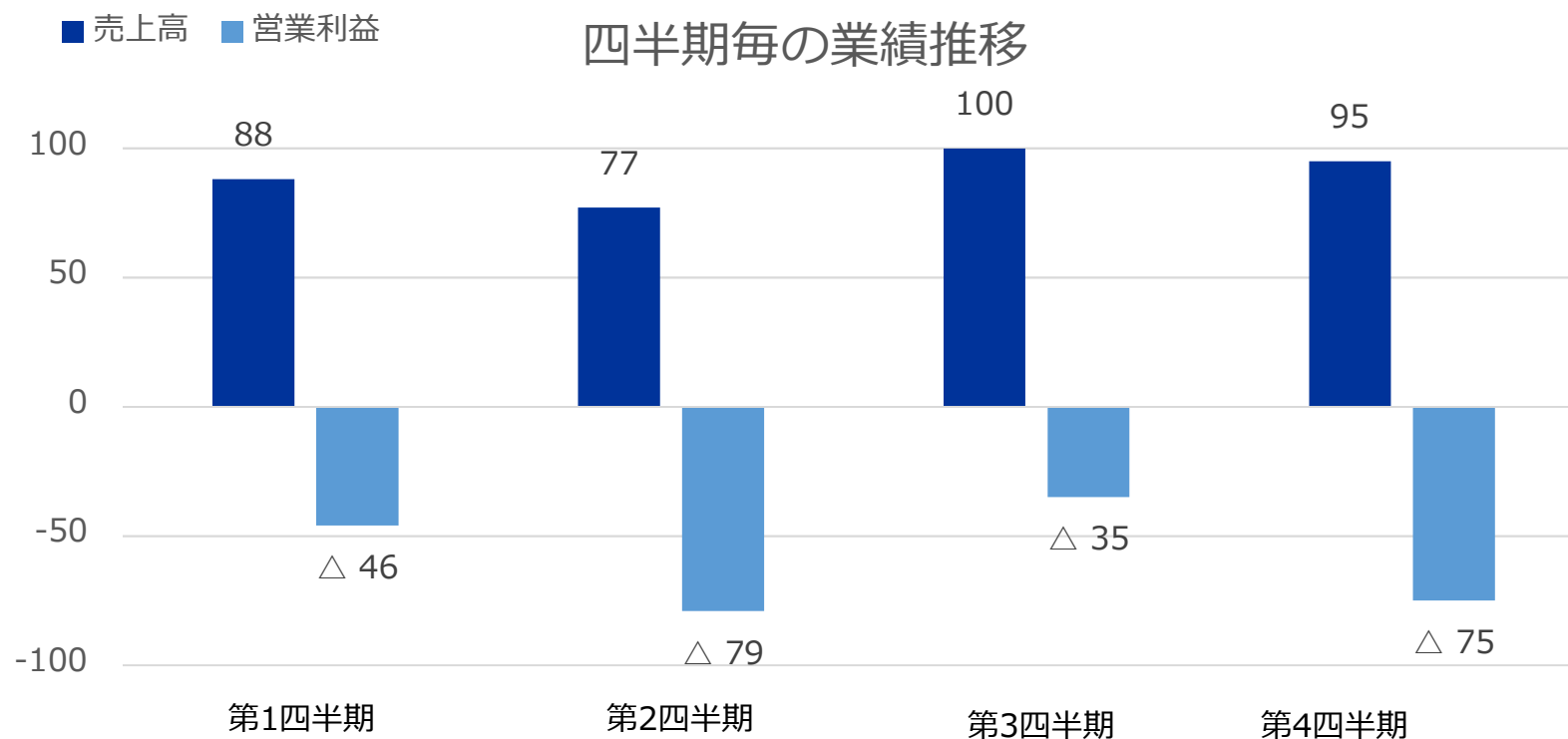
USBメモリー管理に

社内のUSBを一括管理する情報漏洩対策ソフト。全USBの利用可否を制御し、不正利用を防止。

2－②

IoT/AIソリューション事業

2019年12月期：売上高362百万円、営業利益△237百万円



エーアイスクエアは、Sierやソフトウェアベンダーによる代理店販売の拡大に取り組み、ファンドはAIやIoT関連のベンチャー企業に投資を実行。

- 自然言語処理のAIエンジンをコアとし、サービス提供から音声認識技術とのインテグレーション・オペレーションまで一貫サポート

ディープラーニング



最先端のディープラーニングの研究と実装

自然言語処理 (音声・テキスト)



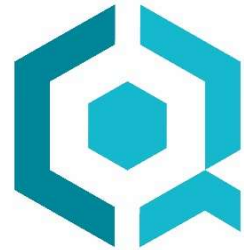
長年の研究開発による日本語構文解析技術・音声認識技術のハンドリング・チューニングに精通

コンタクトセンターオペレーション



コンタクトセンターの構築・運営に関する長年の経験・実証試験の場としてのセンター運営

➤ 独自開発のAIエンジンを活用した2種類のサービスを提供



QuickQA 自動応答

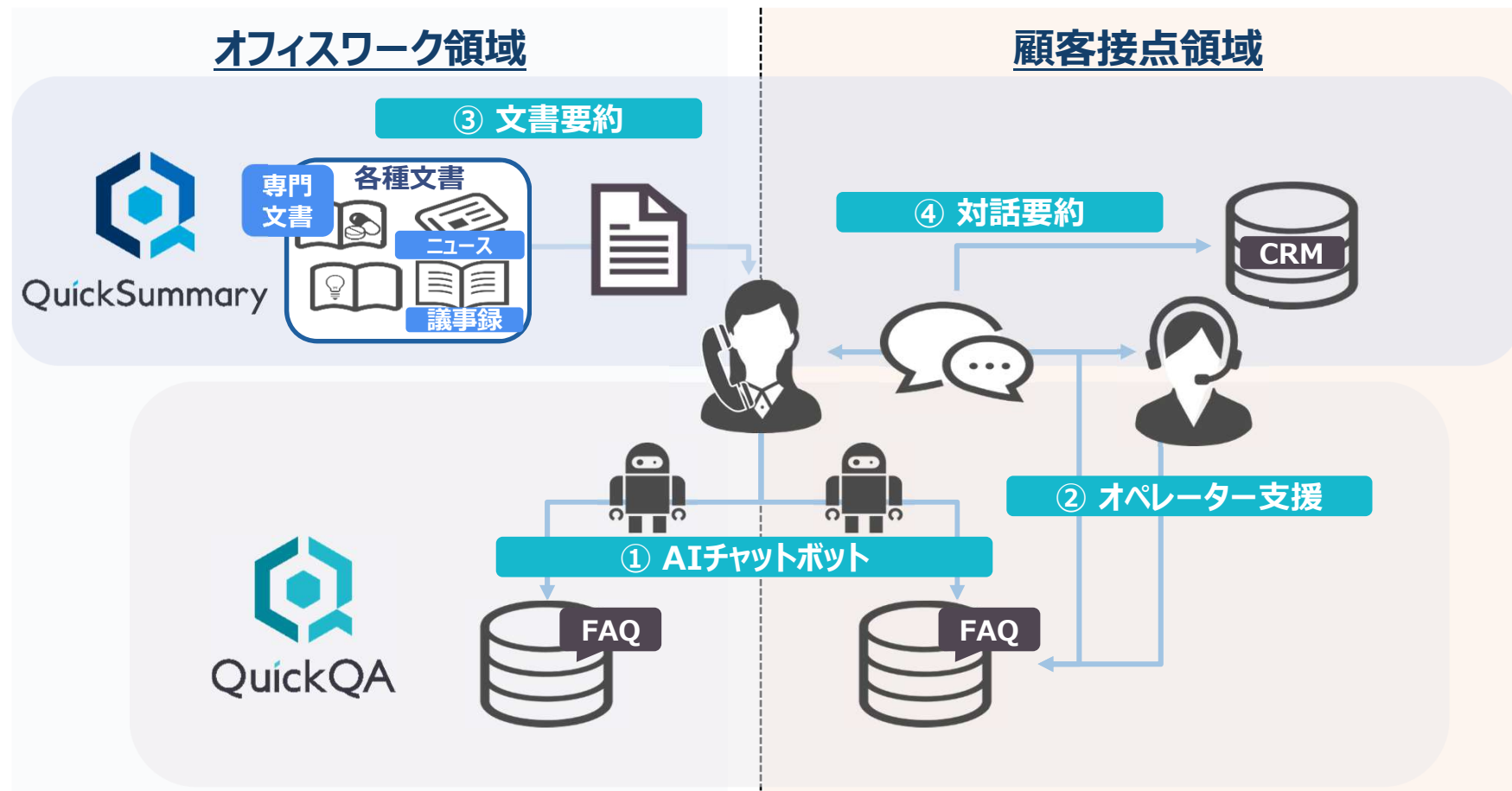
- 1 高性能な人工知能が最適な回答を提示
- 2 充実した管理機能で
導入・運用の負担を軽減
- 3 社内間接部門向け
Q&Aテンプレートを提供



QuickSummary 自動要約・分類

- 1 カスタマイズ無しでの要約抽出
- 2 教師付き学習により業務特性に応じた
要約・分類
- 3 重要語句の自動抽出や自動分類による
SNS解析やVoC分析

- QuickSummary、QuickQAは「オフィスワーク領域」「顧客接点領域」の様々なシーンでご活用が可能



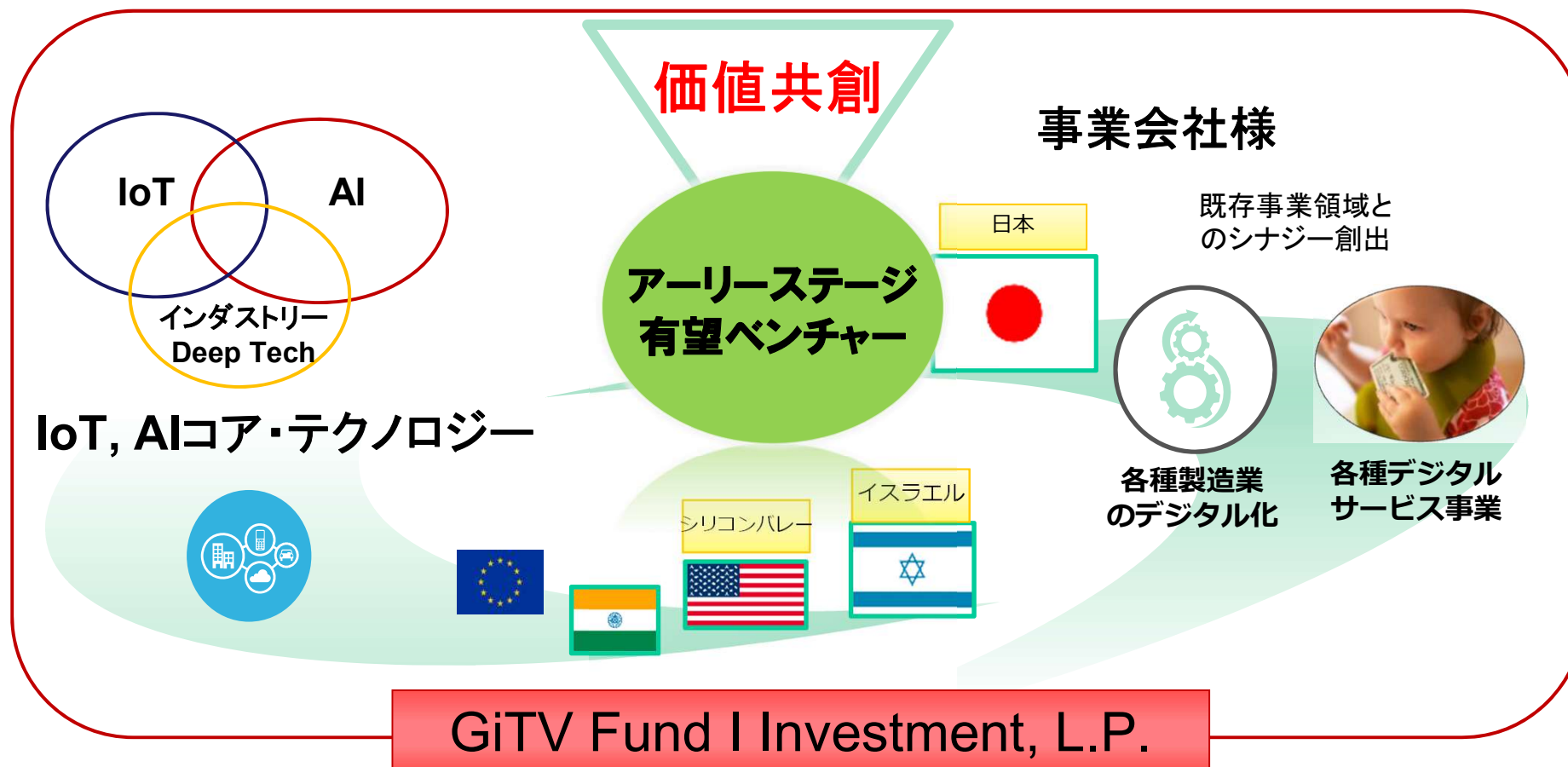
➤ パートナー企業と販路を拡大



Panasonic
System Solutions Japan Co., Ltd.



- グローバルIoTテクノロジーテクノロジーベンチャーズ（GiTV）が
GiTV Fund I Investment, L.P.（ファンド）を組成



➤ ファンドの基本戦略

社会と産業のデジタルトランスフォーメーション時代の事業開発を支援する
デジタルテクノロジー（IoT、AI、ロボット等）にフォーカスした新形態の特化型VC
デジタルイノベーションをグローバル先端地域から戦略的ソーシング

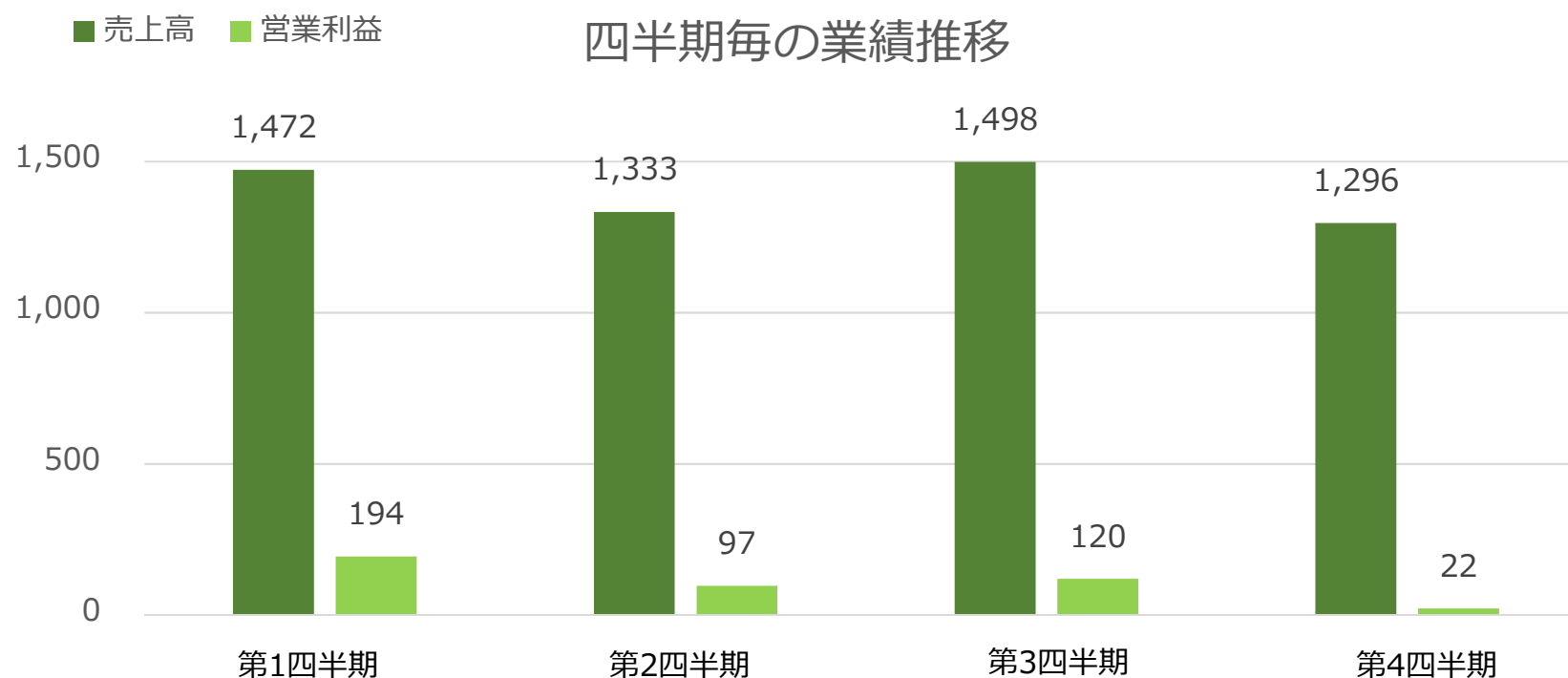
投資先企業例



2－③

メディアソリューション事業

2019年12月期：売上高5,601百万円、営業利益434百万円



第4四半期はACASの償却費等の費用増加もあり22百万円となった。

➤ JCCの主要サービス



- ケーブルテレビ事業者の多チャンネル配信を支えるため、専用のプラットフォームとネットワークを構築。
- 多彩なチャンネルラインアップ

【チャンネルラインアップの一例】



- ケーブルテレビ事業者の強みである地域密着の情報配信力を強化するために様々なコンテンツを開発し提供。
- 主要な情報はスマホでも配信

JC-Smart



- 日本で唯一のケーブルテレビ専用無料総合編成チャンネル。全国各地のお祭り中継や、自主制作番組を配信。



➤ ケーブルテレビ業界を取り巻く環境が大きく変化



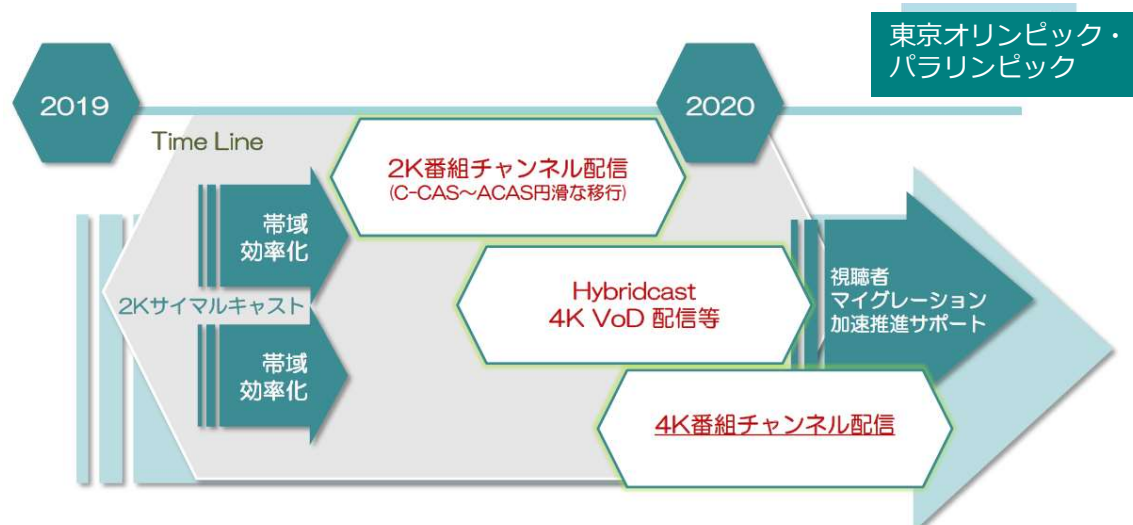
- JCCは4K等の高画質でより楽しい映像サービスのニーズに対して、
ACAS&IPの2つのソリューションをお届けします。

ソリューション①

➤ JC-HITS

C-CAS⇒ACASへの マイグレーション

(注) 2019年度提供開始



ソリューション②

➤ JC-HITS IP

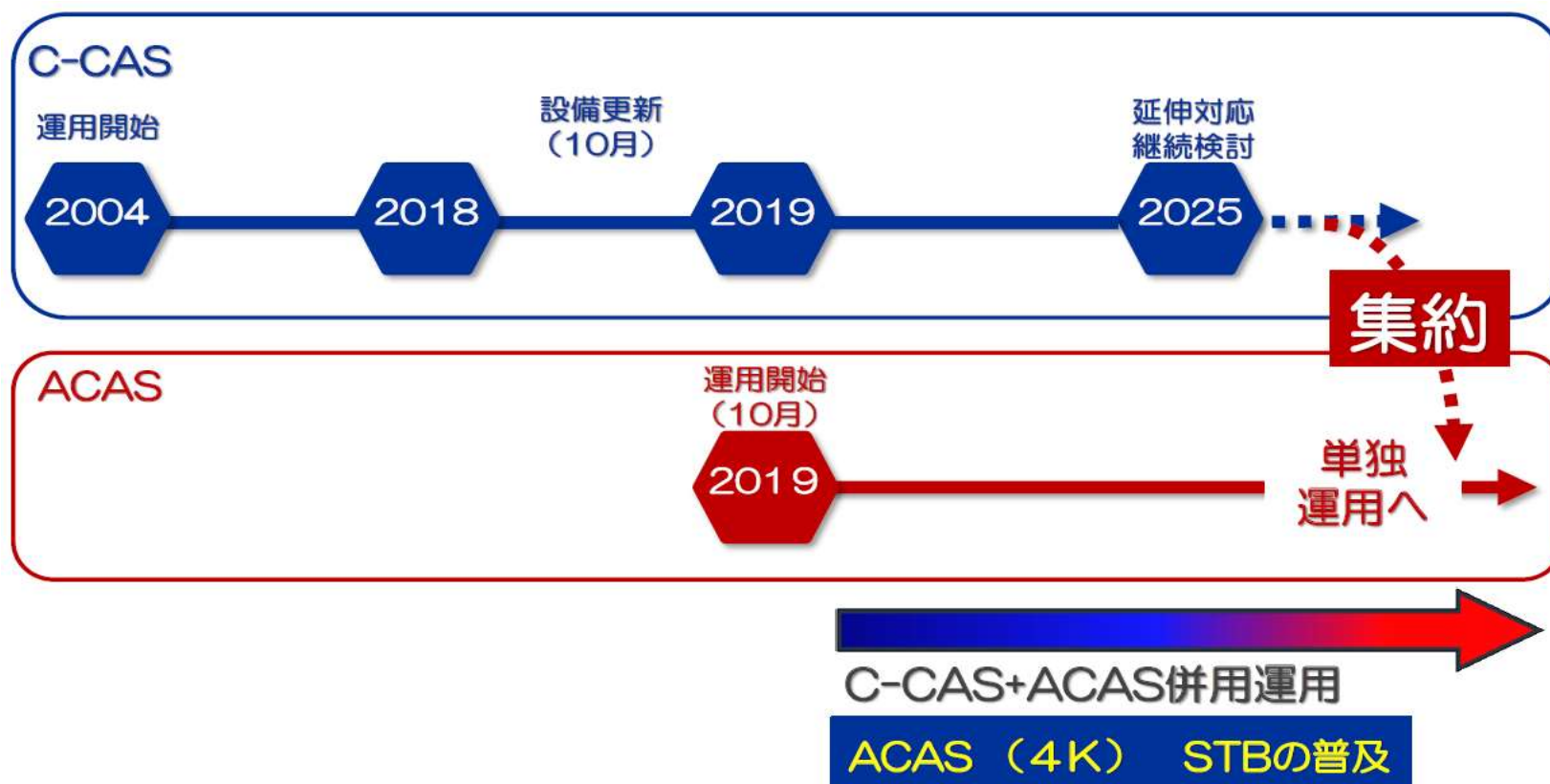
IP放送 + スマートTVサービス

(注) 提供準備中



- JCCの主要サービスJC-HITS C-CASサービスはACASサービスに集約予定

➡ 当面はC-CAS、ACASの併用運用期間となりコスト増



34

- 沖縄地域に有用なサービスの提供に取り組み、ケーブルテレビ加入者数の増加に努めていく
- ✓ 沖縄本島9市町村のエリアで、2019年4月より4つのサービスを拡充
 - ✓ 2019年8月、OCNは日テレ番組を沖縄に初めて届ける役割を担った

- 超高画質・超高精細な4K衛星放送
- 24時間いつでも地域の防災・防犯情報が見られるデータ放送
- コミュニティチャンネルを高画質なハイビジョン映像により放送
- 専門チャンネル全てを高画質なハイビジョン映像により放送



🌊テレビにらい 地デジ 11ch

3

2020年12月期業績予想等

P37~P39

➤ 2020年12月期は増収増益を見込む

（単位：百万円）

	2019年12月期 実績①	2020年12月期 予想②	増 減 ②－①
売上高	8,596	9,470	874
経常利益	△566	80	646
当期純利益	△927	55	982

- 売上高は、大手町の旧データセンターの減収を見込む一方、大手町の新データセンターの増収を見込む。
クラウドソリューション、データソリューションも増収を見込む。
- 経常利益は、売上高の増加に伴い80百万円の黒字を見込む。

➤ 2020年12月期は増収増益を見込む

（単位：百万円）

	2019年12月期 実績①	2020年12月期 予想②	増 減 ②－①
売上高	14,660	16,180	1,520
営業利益	△303	80	383
経常利益	△352	40	392
親会社株主に帰属 する当期純利益	△912	15	927

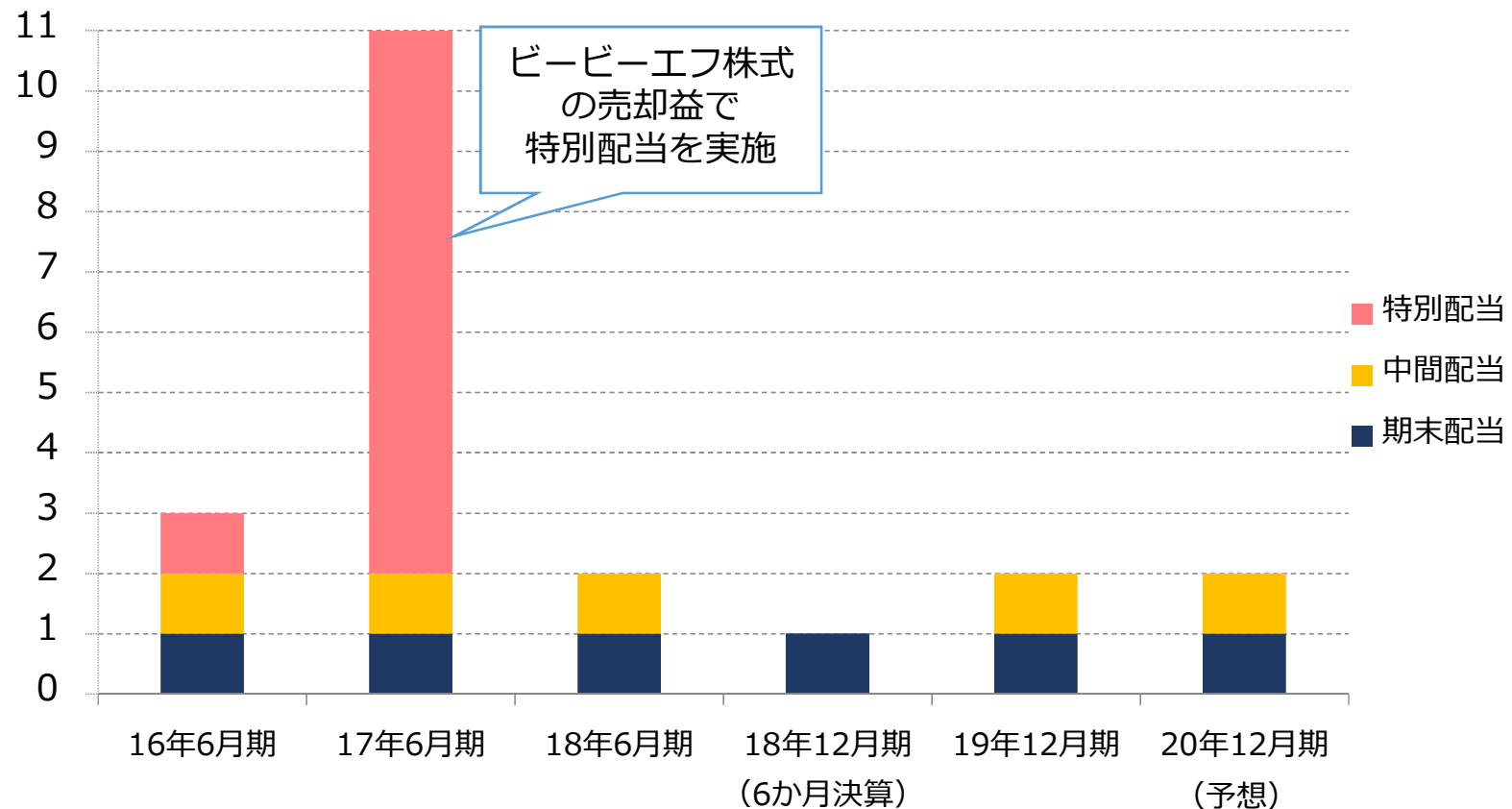
- 売上高は、個別業績予想に加え、主にJCCの売上高増加を見込む。
- 利益面は、前期比増益であるものの、主にJCCの減益の影響を受け営業利益80百万円、経常利益40百万円を見込む。

➤ 継続的な安定配当を実施

- ✓ 20年12月期は中間配当 1 円、期末配当 1 円の合計 2 円を予定。

(単位：円)

1株当たり配当金の推移





(ご注意事項)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社グループとしてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。